

EU Indicators

欧州経済指標コメント：10-12月期英国GDP（改定値）

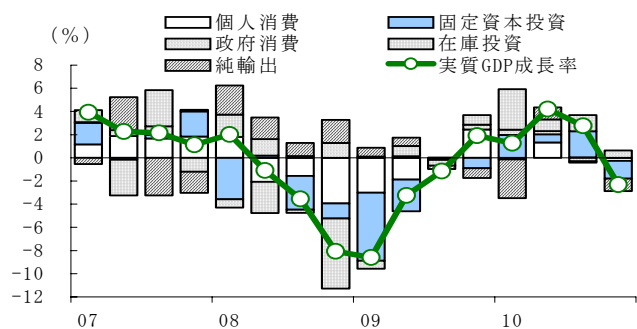
発表日：2011年2月28日（月）

～天候要因だけではない英国景気の不安材料～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

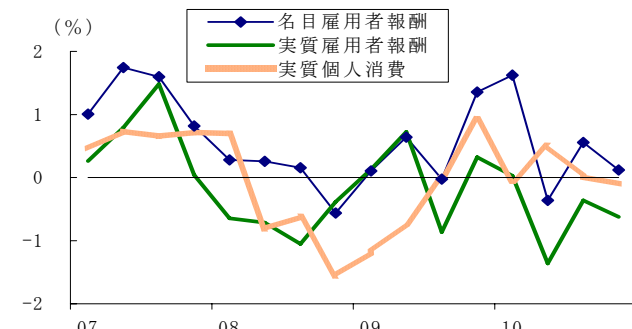
- 25日発表の10-12月期の英国の実質GDP成長率の改定値は前期比▲0.6%、同年率▲2.3%と、速報値（同▲0.5%、▲2.0%）から下方修正。5四半期振りのマイナス成長は記録的寒波で建設活動やクリスマス商戦が下押しされたことが主因ながら、新たに公表された需要項目別の内訳からは、外需寄与度が2四半期連続のマイナス寄与、企業設備投資が4四半期振りに減少するなど、天候要因を除いた経済活動全般も総じて低迷していたことが窺える（左図）。
- 名目雇用者報酬が同+0.1%と辛うじてプラス圏を維持したものの、個人消費デフレータの上昇から、実質雇用者報酬は同▲0.6%とマイナス圏。個人消費の低迷は天候不順で客足が遠退いただけでなく、雇用・所得環境の低迷や物価高による実質購買力の目減りが影響している（右図）。
- 1-3月期入り後の景気は、天候要因による下振れの反動から小売上が持ち直しているほか、製造業部門を中心に業況が上向いている。だが、①今回予想外に増加した政府消費は公務員削減などに伴い、今後は減少基調を辿る、②住宅市況が低迷するなか、天候要因による反動増が一服した後は住宅投資も再び減少に転じる、③雇用・所得環境の大幅改善が期待できないなか、物価高による実質購買力の目減りから、個人消費も総じて低迷が続く公算が大きい。牽引役として期待される外需も過去数年のポンド水準が切り下がっているにもかかわらず、マイナス寄与が定着しており、内需の不振をカバー出来るかは定かでない。英国景気の先行きには極めて高い不確実性がある。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英国国家統計局

■英国：雇用者報酬と個人消費（前期比）



出所：英国国家統計局

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

| | 名目GDP | 実質GDP | 内需 | | | | 外需 | | | |
|------------|-------|-------|---------|-------|--------|--------|---------|---------|-------|-------|
| | | | 個人消費 | 政府支出 | 固定資本投資 | 在庫 | 輸出 | 輸入 | | |
| 09/4-6月期 | ▲ 5.9 | ▲ 3.2 | (▲ 3.9) | ▲ 2.9 | ▲ 0.6 | ▲ 16.5 | (0.9) | (0.7) | ▲ 6.9 | ▲ 8.8 |
| 09/7-9月期 | 4.2 | ▲ 1.1 | (▲ 0.8) | ▲ 0.0 | ▲ 0.7 | 0.2 | (▲ 0.5) | (▲ 0.3) | 3.5 | 4.4 |
| 09/10-12月期 | 5.3 | 1.9 | (2.8) | 3.8 | 1.8 | ▲ 5.8 | (0.8) | (▲ 0.8) | 15.5 | 17.7 |
| 10/1-3月期 | 8.6 | 1.3 | (4.6) | ▲ 0.2 | 2.0 | 13.9 | (3.5) | (▲ 3.3) | ▲ 3.1 | 9.2 |
| 10/4-6月期 | 2.8 | 4.2 | (3.2) | 2.0 | 1.2 | 4.6 | (1.0) | (1.0) | 13.0 | 7.8 |
| 10/7-9月期 | 4.2 | 2.8 | (2.9) | 0.0 | ▲ 1.3 | 15.5 | (1.4) | (▲ 0.1) | 6.9 | 6.7 |
| 10/10-12月期 | 1.7 | ▲ 2.3 | (▲ 1.3) | ▲ 0.4 | 2.8 | ▲ 9.5 | (▲ 0.0) | (▲ 1.1) | 9.4 | 12.3 |

出所：英国連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。